

学会大会課題研究の登壇者募集

課題研究活動委員会

本年度の課題研究は、昨年同様に公募型・推薦型の併用により課題研究の登壇者を募集する。課題研究活動委員会で選定した下記の課題について、課題研究委員会からの推薦による登壇者と会員からの自薦での登壇者の公募を行います。多くの会員の応募を期待しています。

課題研究のテーマ：「初年次教育は生成 AI を活かせるか」

1. 問題の所在と背景

2022年11月30日にオープンAI社から公開されたChatGPTは瞬く間に世の中に広まり、大規模言語モデルの有用性が各所で認識されるようになった。石川県は県庁職員に対して生成AI利用のガイドラインを策定し(2023年6月)、個人情報を入力などを制限することを条件として、職員が業務において積極的に生成AIを使用することを推奨しはじめた。民間でも多くの企業が業務に生成AIを使用させることを推奨しはじめている。

生成AIは使用者が適切な指示(=プロンプト)を与えれば、様々なタイプの作文を行うことが出来る。さらにその作文を、ビジネス用やアカデミズム用の文体に書き直したり、子供や幼児向けの文体に書き直したりすることも可能である。情報検索ツールとしても優れており、専門用語の意味を知りたいければインターネット中の膨大な情報からそれを見つけ出して教えてくれる。さらに解決したい問題を提示すれば、例解を提示することも可能である。具体例として直近の医師国家試験をファイルで生成AIにアップロードすれば、即座にその解答を提示し、しかも解説までつけてくれる。似たような例題を作るよう指示すれば、それも可能である。それだけでなく、自動翻訳機としても優れており、自分の書いた文章を様々な言語に翻訳可能で、また外国語から日本語への変換もスムーズである。英文解釈の勉強を補うツールとしても優れており、文中で指示代名詞itが何を受けているのか問えば、明確な解答が返ってくる。また、単に文法の解釈にとどまらず、その英文が書かれた背景を問えば、歴史的・政治的・思想的・文学的背景まで解説が出てくる。

これほどのツールを前にして、大学教育がその影響を受けないわけにはいかないだろう。何より、実業界・産業界・官界がこのツールの使用を推奨していることから、各界への人材供給を期待される大学には、学生に生成AIを巧みに操る技能を教育することが期待されることも自然である。ところが、ここで大きな問題が懸念される。学術的なアイデアの発表は常に文章表現をともなってきた。あらゆる学問分野が専門雑誌を中核とした「ジャーナル共同体」を形成し、その中での意見交換を通じて発展してきた。もし簡単に文章を生成するツールを大学生に与えてしまうと、逆に彼らから表現者としての主体形成の機会を奪うことにならないのだろうか。

アカデミック・ライティングの教育の場で生成AIの使用を許可することは、小学校の算数の勉強の際に児童に計算機を渡すことと対比できる。「1+1」を実際に計算することと、計算機上でそれをタイプすることとは、全く意味が異なるのと同じように、自らの思考を表現することと、AIが生成した文章の継ぎ接ぎを作ることは全く意味が異なる。初年次教育に関わる者は、手放して生成AIの使用を推奨するのではなく、それを使用することの有用性と弊害を公平に評価して学生に伝えていくことが必要なのではないだろうか。

そこで、本年度の課題研究は生成AIを活用した初年次教育にスポットを当ててみたい。課題研究活動委員会では、このツールを用いることには、教育効果の向上が期待できる面とそうでない面という二面性があると考え。生成AIの活用については、近年大学で重要視されてきた「研究、著作、表現に関連した倫理性」という問題とも深く関わっている。倫理の問題も含め、様々な実践例を紹介しあい、生成AIの有用性と弊害について議論する場を設けることで、これからの日本の大学における初年次教育の方向性についてともに探っていきたい。

サブテーマ

- (1) 生成 AI 活用の実践例
- (2) 生成 AI の弊害
- (3) 学力測定と AI 教育
- (4) 倫理性と AI 教育

2. 選考の方法・スケジュール

この公募選考にあたっては、皆さまの実践や研究成果から、これからの初年次教育や大学教育の在り方を考えつつ、課題発見から課題解決につなげることをめざしています。

課題意識の明確性、実践実績または分析の説得力、発展性、汎用性、などの観点から審査いたします。

別途、課題研究活動委員会・(理事会)からの推薦もあり得る。

募集人員：3名程度

(1) 書類選考

800～1000字程度に、研究報告の概要についてまとめてもらう。

① タイトル、②サブテーマのいずれに該当するか(複数可)、③報告内容(内容、方法)、④氏名、所属を記載

送付先：学会事務局 jafye-office@bunken.co.jp

締切：5月7日17時

(2) 審査委員会で書類選考通過者に面談(Zoom)5月12～16日頃を予定

課題研究委員会で選考結果決定・通知：5月中旬以降を予定

登壇者の審査・調整を行い、サブテーマ、登壇者確定

(3) 登壇者打合せ：5月下旬以降を予定

(4) 公募申請にあたっての留意事項：

- ・初年次教育学会の個人会員もしくは機関会員であること

3. 審査担当者

課題研究委員会：山田礼子、笹金光徳、本田康二郎